

4. Good Work Project

1995 年より Claremont Graduate University, Harvard University そして Stanford University の協力のもと, Howard Gardner, Mihaly Csikszentmihalyi, William Damon 達は GoodWork Project を立ち上げた。彼らは GoodWork を「(専門的な領域で)質が高く, 社会的な責任を果たし, しかも, 働いている人にはとって意義ある仕事」と定義している。つまり, 倫理面からも, 専門的な技術面からも成功している仕事が GoodWork である。

GoodWork Project ではさまざまな職業に従事する人々の経験を実地調査し, いかに GoodWorkers を社会に輩出できるかに取り組んでいる。良い時代であっても GoodWork を成し遂げることは難しい。ましてや現代のように複雑な時代ではその困難は計り知れない。そこでこのプロジェクトでは研究上の論点を次のように設定した。

研究上の論点: GoodWork を志す個人、企業(団体)が次の 3 つの条件下でどのように GoodWork を成功させたか、または GoodWork に失敗したか。

1. 重要な状況の変化が急激に起きている。
2. 時間と空間的な感覚が科学技術の躍進で抜本的に変化している。
3. 市場の力が対抗勢力を持たず, 強大になっている。

さて, プロジェクトの研究者は被験者に以上の3つの内容を単刀直入に問うのではなく, さまざまな角度から, これを引き出すような質問事項を作成した。この作成作業には 5 年を費やし, 調査は 10 年に及んだ。被験者数は 1000 人を超え, 職業領域もジャーナリズム, 遺伝子学者など多岐にわたるビジネスの分野の新人からベテランまで幅広い層を対象にした。プロフェッショナルと称される被験者に徹底的なインタビューを行ない, その結果を分析した。インタビュー項目は職業の使命, 指導上の精神, その人が持つ影響力をどのように形成したか, 最大の挑戦事項は何か, 戦略方法は何かなどである。

この研究結果を見ると, ほとんどの領域においてプロフェッショナルと言われる人たちは何が GoodWork であるのか, またどうやったら, それを成し遂げることが出来るのかを確信していたといえる。また, 特に利益団体の連携が上手いっていると GoodWork は成功し, 連携がうまくいかないと GoodWork を達成することは困難であることもわかった。しかしながら, そのような不利な状況でも達成された GoodWork は人々を奮起させる良いモデルとなる。

調査の結果, 特に問題と思われたのは若い働き手の意識である。彼らは仕事の質を高くすると同時に倫理観を保つことは現代では難しいと感じている。周囲の人たちが常に手を抜いていると思い込んだり, 良い結果を求めるのなら, 何かを犠牲にしてもよいと信じている節がある。ガードナーは若い働き手達が将来 GoodWork の良き手本となってくれることを望んでいる。そこで, GoodWork の輪郭というものが曖昧になりつつある現在, ガードナーは GoodWork を定期的に若者に示す教育が必要だと示唆している。

- References -

About the GoodWork Project. Retrieved June 6, 2006 from <http://www.goodworkproject.org/about.htm>